

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策No.232

記入日 平成 25年 8月 6日

点検日 平成25年 8月 9日

施策名	防犯対策の促進	施策担当マネージャー	市民生活部次長	マネージャー氏名	山中 冬樹	内線	203
政策展開の基本方向	2 「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	政策	2.3 安全に暮らせる社会システムをつくります				
関連計画・根拠法令等	①鎌ヶ谷市防犯対策基本要綱 ②鎌ヶ谷市安全で安心なまちづくりの促進に関する条例 ③鎌ヶ谷市防犯灯維持管理費補助金交付基 ④鎌ヶ谷市防犯協会に対する補助金交付基準・同新設補助金交付基準						

(1) 施策の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。)

市民、自治会

(2) 施策の意図(対象をどのような状態にするのか)

自治会などと協力し、防犯灯の設置や維持管理を行うことにより、夜間の安全確保がなされる。また、防犯協会を支援し、自治会(市民)による防犯パトロール隊の結成促進等を行い、犯罪抑止につなげることにより、安全安心なまちづくりを進める。

(3) 施策の成果

指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	目標値 (目標年度27年度)	
施策	刑法犯認知件数	件	1,472	1,634	1,494	1,314	1,400
	防犯パトロール隊団体数	団体	39	42	47	48	38
基本事業	防犯灯設置灯数	基	7,457	7,560	7,720	7,826	7,750
	防犯パトロール隊参加者数	人	1,561	1,711	1,850	1,813	1,850
	防犯サテライト事業参加者数	人	340	170	170	210	350
	防犯パトロール隊団体数	団体	39	42	47	48	38

年度	単位	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 決算見込み額	平成25年度 予算額	目標年度(年度) 今後の計画総額	
コストの推移	コスト・指標	千円						
	(1)総事業費 自動計算	千円	52,293	52,240	59,864	70,283	80,915	0
	①国庫支出金	千円						
	②県支出金	千円		7,560	13,319	7,214	10,844	
	③市債・その他財源	千円						
④一般財源	千円	52,293	44,680	46,545	63,069	70,071		
(2)総所要時間(0.5単位) ①+②+③自動計算	時間 /年	600	2,748	5,164	5,523	0	0	
①正職員(時間内)	時間 /年	600	2,100	4,200	4,440			
②正職員(時間外)	時間 /年		284	660	740			
③非常勤職員	時間 /年		364	304	343			

3. コスト説明	(1) 市民一人あたりコスト	円	65	(2) 全施策中の順位	この施策は、全42施策中	28	番目にコストをかけています。
----------	----------------	---	----	-------------	--------------	----	----------------

4. 環境分析	(1) 過去5年間で施策を取り巻く環境はどのように変わったか	市内の防犯灯や防犯パトロール隊の数は増加している。昨年度までは市内の刑法犯認知件数は減少傾向にある。	(2) 今後施策を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	都市化の一層の進展により、犯罪が増加する恐れがある。一方、地域の防犯意識の高揚により、防犯灯の設置要望の増加が予想される。
	(3) 施策について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見等)	多くの市民から、防犯灯の設置要望がある。また、自転車盗やひったくり、振り込め詐欺などの犯罪に対する不安が寄せられており、これら犯罪を防止するための対策が求められている。	(4) 国・千葉県の方針並びに関係法規等の変化	なし

5. 施策を構成する事務事業の状況※施策中優先順位順に記載	優先度	事務事業名	担当課																		
	B	防犯対策に要する経費	安全対策課																		
		夜間防犯パトロール事業	安全対策課																		
	C	防犯カメラ設置事業	安全対策課																		

①施策の中で優先度が高い事務事業から順に、A→B→Cの3区分で表示しています。
 ②優先度の判断は、「施策貢献度」「行政の果たす役割の大きさ」「投資効果」「市民ニーズ」「緊急性」の5つの尺度で相対的に判断した結果です。

6. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3:高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？市民等との役割分担は適切か？ 防犯灯の維持管理には、多額の電気料を要するが、市民の安全・安心を確保するためには行政の支援が不可欠である。また、鎌ヶ谷市安全で安心なまちづくりの促進に関する条例や鎌ヶ谷市防犯対策基本要綱に基づき防犯協会の育成及び助成をしている。
	(2)目的妥当性	3:高い	(理由)施策の目的は政策にどのように結びついているか。 防犯灯については、地域の実情をよく把握している自治会等の防犯灯管理団体が管理を行うことで、地域の安全は自分たちで守るといった防犯意識の高揚につながると共に防犯対策の強化にもつながる。防犯協会については、協会が中心となり市、警察、市民、事業者が協働して犯罪を減少させようとするもので、防犯協会への補助は重要な施策と考えている。
	(3)公平性	3:高い	(理由)対象は偏っていないか？対象を広げたり狭めたりできないか？ 「鎌ヶ谷市防犯灯新設補助金交付基準」により市内自治会等の防犯灯管理団体84団体に公平に補助をしている。防犯協会は、市、警察、市民、事業者の協働による地域ぐるみの防犯活動の推進を図っており、全市民的な活動であるため公平性は高いものと考えられる。
	(4)有効性	3:高い	(理由)この施策を廃止した場合支障があるか。同じ目的を持つ他の施策はあるか？さらに成果指標を伸ばせないか？ 市内自治会等の防犯灯管理団体は、財政的に厳しい状況であり、事業を廃止することで防犯灯の維持を行うことが出来なくなる恐れがある。仮に市が直接管理した場合には人件費等のコストがかなり効率的ではない。また、地域の住民が防犯灯を維持管理することにより防犯意識の高揚が図られ地域ぐるみの防犯活動の推進に寄与することになる。防犯協会は、市、警察、市民、事業者の協働による地域ぐるみの防犯活動の推進を図っており、防犯協会への補助は有用な施策と考える。
	(5)効率性	3:高い	(理由)コストがかかりすぎているか？どうしたらコスト、所要時間を縮減できるか？ 地域の実情をよく把握している自治会等が防犯灯を管理し、経費は行政が負担するという市民との役割分担により、維持管理の人件費コスト等が縮減や地域の防犯意識の高揚が図れ効率的である。
	(6)総合評価	7:拡充	(今後の方向内容) 防犯対策は、市民が安全に安心して生活する上で欠かせない施策であるため、引き続き防犯対策を推進する必要がある。

7. 改革・改善案	(1)改革・改善の方向	防犯灯については、既設の防犯灯の修繕が必要となる際に、随時LED灯への切替を実施していく。また、防犯体制については、継続的に強化に努めていく。
	(2)改革・改善案の概要 ※指標改善の根拠とコストを示す	LED灯の設置を可能とするため平成24年度に防犯灯新設補助金交付基準の改正を行った。
	(3)改革・改善案の問題要因と克服策	LED灯は一時と比べると安くなったとはいえ、従来の水銀灯に比べるとまだ高い。
	(4)改革・改善案導入の考え方 ※施策担当マネージャー所感	LED灯は長寿命であること、また、電気料が安く環境への負担も少ないことを考えると、計画的に導入すべきと考えるが、導入にあたってはコストの平準化を図るためリース方式を検討する。

8. 成果とコストの方向性	成果の方向性	向上				○
	コストの方向性	維持				
		低下				
		縮減	維持	増加	コストの方向性	

成果とコストの方向性に関する説明

市民の安心・安全を確保することは市政運営の根幹をなす施策であり、県北西部の広域交流拠点としてますます都市化する本市にとって、その充実に資することは喫緊の課題である。

※評価検討(1)～(5) 1:低い、2:普通、3:高い、4:あてはまらない
 ※総合評価検討(6) 1:終了、2:廃止、3:休止、4:縮小、5:改善、6:現状維持、7:拡充
 1 終了:事業が完了したので、終了する
 2 廃止:事業を廃止する
 3 休止:再開を前提に休止する
 4 縮小:好ましくない状況なので、規模を縮小する
 5 改善:事業実施方法等について、改善した上、継続する
 6 精査・検証:精査・検証の上、継続する
 7 拡充:重点的に資源を配分し、規模を拡大する